

令和8年度 第1回学校運営協議会 記録（4/15）

委員：評価計画書に、地域との関わりについての項目がない。学校で平和に過ごせている環境は、地域が作っている。もっと地域は学校に関わっていきたいと思っている。評価項目があれば、現状を知る術にもなると思う。

委員：目標値の根拠があれば、分かりやすい。また、学年ごとに違いがあると思うので、学年別に設定し、修正しながら取り組んでいくとよいのではないか。

校長：ここに示しているのは、あくまで重点項目。さらに細かく別のアンケート項目を設定している。この具体的な取組についてのデータは、今後、この協議会でも示していく。もし、「こういった項目のアンケートもとってみてほしい」という意見があれば、教えてほしい。

委員：子ども達を「ほめる」だけでよいのか。「怒る」ではなく「叱る」ことは必要ではないか。「叱る」には、信頼関係を築いた上で、期待している、励ましているという気持ちが含まれている。こういったプログラム（SST）をやったことで、子どもの現状がどうなったか知りたい。それを踏まえ、地域が子どもにどう関わっていくかを、考えたい。

校長：「叱る」ことの大切さについては、入学説明会・入学式等で保護者にも伝えている。一方で、体罰セクハラアンケートに、「先生からきつい・冷たい言葉がある」と記述されていることもある。「あなたを大切にしている」ことが伝わるように、挨拶やさりげない言葉のやりとりで日頃から人間関係を作っていくことが大切だと考えている。これは、地域の人との関係づくりも同じこと。顔が見える関係をつくり、日頃からつながりを作っていけたらと思う。

委員：地域主体の取組を学校教育にどう取り入れていけばよいか、見えない。年間4回の運営協議会でよいのか。もっと議論が必要ではないか。

校長：熟議は、形式ばったところがある。1年生のスタートカリキュラムなどは、春休みに担当どうして密に連携している。個別の対応でも、地域とつながっていけたらと思う。

【委員の方の感想より】

- ・十分な学力がついていないと感じる子ども達が多いと感じる。しっかりと学習指導してほしい。